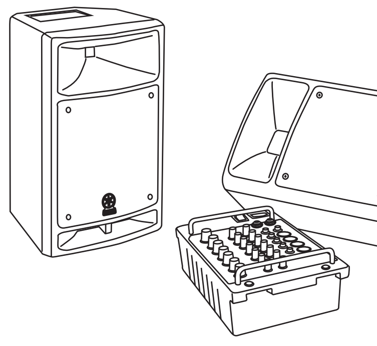
YAMAHA

JA

PORTABLE PA SYSTEM STAGEPAS 300
取扱説明書

ごあいさつ

このたびは、ヤマハPORTABLE PA SYSTEM STAGEPAS 300 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。STAGEPAS 300は、2台のスピーカーとミキサーで構成されたPAシステムです。STAGEPAS 300のさまざまな機能を十分に活用するために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。



特長

■2way 8インチ(20cm)スピーカー
コンパクトながら高品位でパワフルなサウンドを実現できます。外傷に強いボディで屋外でも安心して使用できます。

■パワードミキサー
イコライザーやリバーブ機能まで内蔵したオールインワンのパワードミキサー。4モノ+2ステレオ入力に対応しています。多彩な楽器や音響機器を接続できます。

■コンパクト収納
ミキサーを1台のスピーカーに収納できるので、小さいスペースで屋内でも屋外でも対応できます。もう1台のスピーカーには、スピーカーケーブルやマイクを収納できるので、持ち運びや置き場所にも困りません。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

⚠	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
⃠ ⃠ ⃠	～しないでくださいという「禁止」を示します。
● ❗	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ **警告**	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行 **電源は必ず交流100V を使用する。**
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行 **電源コードは、必ず付属のものを使用する。**
故障、発熱、火災などの原因になります。

禁止 **電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。**
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

接続

必ず実行 **アース(接地)を確実に行なう。**
電源コードには、感電を防ぐためのアース線があります。電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をアース接続してください。確実にアース接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行なってください。

分解禁止

禁止 **この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。**
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意

禁止 **この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。**
感電や火災、または故障の原因になります。

禁止 **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
感電のおそれがあります。

異常に気づいたら

必ず実行 **電源コードやプラグがいたんだ場合、または使用中に音が出なくなったり異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。**
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

必ず実行 **この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。**
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源/電源コード

必ず実行 **長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。**
感電や火災、故障の原因になることがあります。

必ず実行 **電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。**
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

設置

必ず実行 **スタンドを使用する場合は、以下の点に注意する。**
この機器が転倒して破損したり、お客さまや他の方々がけがをしたりする原因になります。
- ULTIMATE社製スピーカースタンドTS-70B、TS-80T、TS-90Tを使用する
- 1台のスタンドに、1台のスピーカーのみを設置する
- 付属のネジがある場合は必ずそれを使用する
- 固定用のネジはしっかり締める
- スタンドの脚は最大に開いた状態で使用する
- スタンドは150cm以下の高さで使用する
- スタンドが倒れないように、スタンドの脚に砂袋などで重量を付加する
- スタンドを移動したり高さを調整したりする前に、スピーカーをスタンドから取り外す
- 設置したスタンドの回りは、人の立ち入りを制限する

必ず実行 **この機器を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。**
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。

禁止 **風通しの悪い狭いところに押し込めたりしない。**
ミキサーを壁や他の機器から左右に30cm、後ろに30cm、上に30cm以上離してください。(ミキサーをスピーカーに取り付けた場合でも、スピーカーを壁や他の機器から左右に30cm、後ろに30cm、上に30cm以上離してください。)機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

必ず実行 **この機器を電源コンセントの近くに設置する。**
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

禁止 **スピーカーを吊り下げるためにスピーカーのハンドルを使用しない。**
この機器が落下して破損したり、お客さまや他の方々がけがをしたりする原因になります。

禁止 **イコライザーやLEVELコントロールをすべて最大には設定しない。**
接続した機器によっては、発振したりスピーカーを破損したりする原因になることがあります。

禁止 **直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。**
この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

禁止 **不安定な場所に置かない。**
この機器が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

禁止 **このミキサーの通風孔をふさがない。**
内部の温度上昇を防ぐため、このミキサーのパネル上には通風孔があります。特に、この機器をひっくり返したり、横倒しや前後逆さまにしたりしない。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

禁止 **テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。**
この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

接続

必ず実行 **付属のスピーカーや他の機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量(ボリューム)を最小にする。**
感電、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

必ず実行 **スピーカーの接続には、付属のスピーカーとスピーカーケーブルを使用する。**
それ以外のスピーカーまたはケーブルを使うと、火災の原因になることがあります。

使用時の注意

必ず実行 **スピーカーの故障を防ぐために、電源を入れるときは、最後にこの機器の電源を入れる。また、電源を切るときは、最初にこの機器の電源を切る。**

禁止 **この機器の通風孔、バスレフポート(前面の穴)、パネルのすき間に手や指を入れない。**
お客様がけがをするおそれがあります。

禁止 **この機器の通風孔、バスレフポート(前面の穴)、パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。**
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

禁止 **大きな音量で長時間スピーカーを使用しない。**
聴覚障害の原因になります。

禁止 **音が歪んだ状態ではこの機器を使用しない。**
機器が発熱し、火災の原因になることがあります。

禁止 **この機器の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。**
この機器が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

XLRタイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです。
(IEC60268規格に基づいています)
1: グラウンド(GND)、2: ホット(+)、3: コールド(−)

携帯電話からの影響について
この機器のすぐ近くで携帯電話を使用すると、この機器にノイズが入ることがあります。そのようなときは、少し離れた場所で携帯電話をご使用ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。
スイッチ、ボリュームコントロール、接続端子などの消耗部品は、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

＊この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
＊この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって実際の仕様と異なる場合があります。

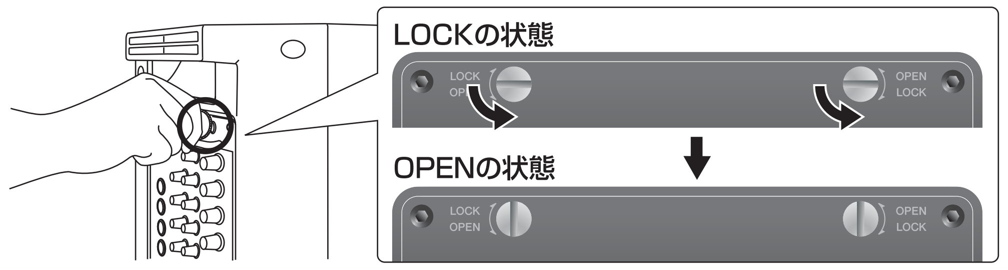
パッケージの内容 (お確かめください)

スピーカー2台、ミキサー1台、パネル1枚、電源ケーブル、スピーカーケーブル2本、取扱説明書(本紙)、保証書
NOTE: 工場出荷時には、ミキサーとパネルはスピーカーに取り付けられています。

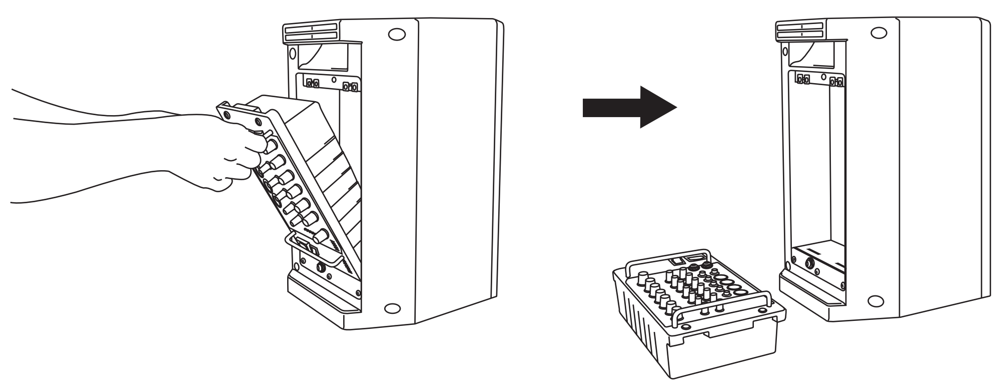
ご使用前の準備

ミキサーの取り外し

1. ミキサーの電源が切れていることを確認します。
2. コインなどを使って、ミキサーの固定ネジをLOCKからOPENの方向に「カチッ」と音がするまで回します。



3. ミキサーのハンドルを持ってスピーカーからミキサーを取り外します。



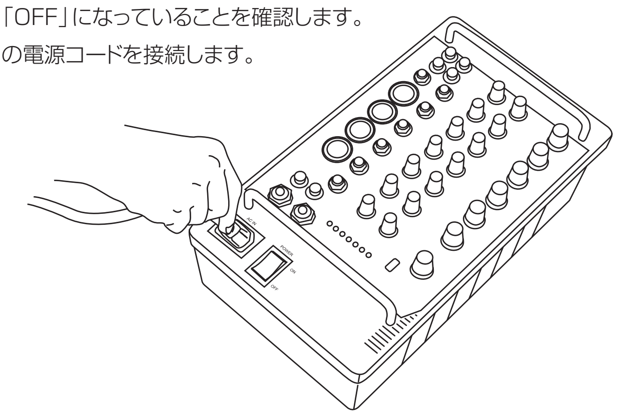
必ず実行 ミキサーのハンドルは、ミキサーをスピーカーから取り外すときと、ミキサーだけを持ち運ぶときに使用してください。

NOTE: ミキサーをスピーカーに取り付けたままでもご使用いただけます。

ミキサーを取り付けるときは、スピーカーの溝とミキサーの凸部を合わせてミキサーをしっかりはめ込んだあと、固定ネジをOPENからLOCKの方向に「カチッ」と音がするまで回します。

電源の準備

1. POWERスイッチが「OFF」になっていることを確認します。
2. [AC IN]端子に付属の電源コードを接続します。

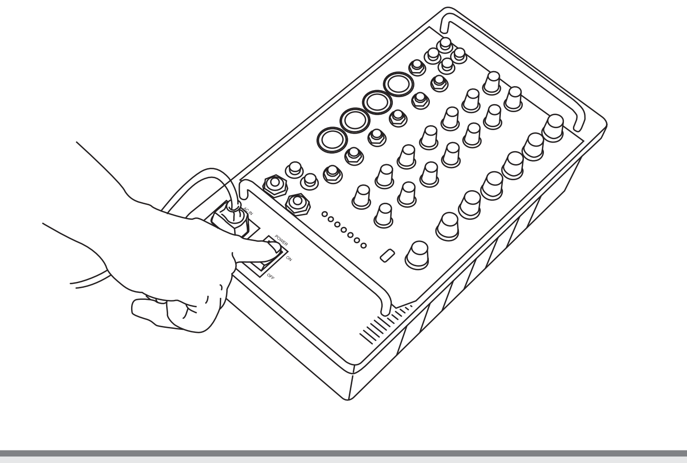


3. 電源コンセント(AC100V)にプラグを差し込みます。

電源を入れる/切る

必ず実行
- スピーカーから大きなノイズが発生しないようにするため、音源に近い機器から順に電源を入れてください。
  例　CDプレーヤーや楽器などの音源→STAGEPAS 300
  電源を切る場合は、上記の逆の手順になります。
- 電源を入れる前に、LEVELコントロール、MASTER LEVELコントロールを"0"にしておいてください。
- 付属のスピーカーや他の機器と接続する場合は、必ずすべての電源を切った上で行なってください。また、スピーカーケーブルは必ず付属のケーブルをご使用ください。故障の原因になることがあります。

POWERスイッチを「ON」側に押すと、電源が入ります。POWERインジケーターが点灯します。
電源を切るには、POWERスイッチを「OFF」側に押します。POWERインジケーターが消灯します。



困ったときは？（故障かな？と思ったら）

電源が入らない

□ 付属の電源コードが電源コンセントに正しく接続されていますか?

突然、電源が切れた

□ 大音量で長時間使用していませんか?
許容レベルを超えた音量で長時間使用すると、保護回路が動作して電源が切れます。
ミキサー内部の熱が下がるまでPOWERスイッチを「ON」にしても電源は入りませんので、熱が下がってから電源を入れてください。
また、LIMITERインジケーターが一瞬点灯するレベル以下に、MASTER LEVELコントロールで音量を下げてください。

□ ミキサーのパネル上の通風孔をふさいでいませんか?
放熱が不十分なためミキサーに熱がこもると、保護回路が動作して電源が切れます。
ミキサー内部の熱が下がるまでPOWERスイッチを「ON」にしても電源は入りませんので、熱が下がってから電源を入れてください。

音が出ない

□ 外部機器(マイクを含む)やスピーカーは、正しく接続されていますか?

□ 各チャンネルのLEVELコントロールやMASTER LEVELコントロールなどは、適切に調節されていますか?

□ SPEAKER L/R端子には、付属のスピーカーを接続していますか?

□ POWERインジケーターが点滅していませんか?
スピーカーケーブルがショートしている場合があります。スピーカーケーブルが正しく接続されているか確認したあと、再度電源を入れ直してください。

□ それでも音が出ない場合は、取扱説明書(本紙)に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

音が途切れる

□ 大音量で使用していませんか?
許容レベルを超えた音量で使用すると、保護回路により電源が停止と自動復帰を繰り返すため、音が途切れることがあります。
LIMITERインジケーターが一瞬点灯するレベル以下に、MASTER LEVELコントロールで音量を下げてください。

音が歪んだり、雑音が入る

□ 各チャンネルのLEVELコントロールやMASTER LEVELコントロールは、上がりすぎていませんか?

□ 各チャンネルのMIC/LINEスイッチは適切に設定されていますか?

□ チャンネル(1から4)のXLRタイプとフォーンタイプの端子に両方接続していませんか?
どちらか一方の端子だけをご使用ください。

□ ミキサーに接続した機器からの入力信号のレベルは適切ですか?

音が小さい

□ 各チャンネルのLEVELコントロールやMASTER LEVELコントロールなどは、適切に調節されていますか?

□ 各チャンネルのMIC/LINEスイッチは適切に設定されていますか?

□ チャンネル(1から4)のXLRタイプとフォーンタイプの端子に両方接続していませんか?
どちらか一方の端子だけをご使用ください。

□ ミキサーに接続した機器からの入力信号のレベルは適切ですか?

リバーブがかからない

□ 各チャンネルのREVERBスイッチはON (▂)になっていますか?

□ REVERBコントロールは適切に調節されていますか?

スピーカーからの音に迫力をつけたい

□ SPEECH/MUSICスイッチが、MUSIC (▂)の設定になっていますか?

□ イコライザー (HIGH/LOW)は、適切に調節されていますか?

スピーチの声をはっきりさせたい

□ SPEECH/MUSICスイッチが、SPEECH (█)の設定になっていますか?

□ イコライザー (HIGH/LOW)は、適切に調節されていますか?

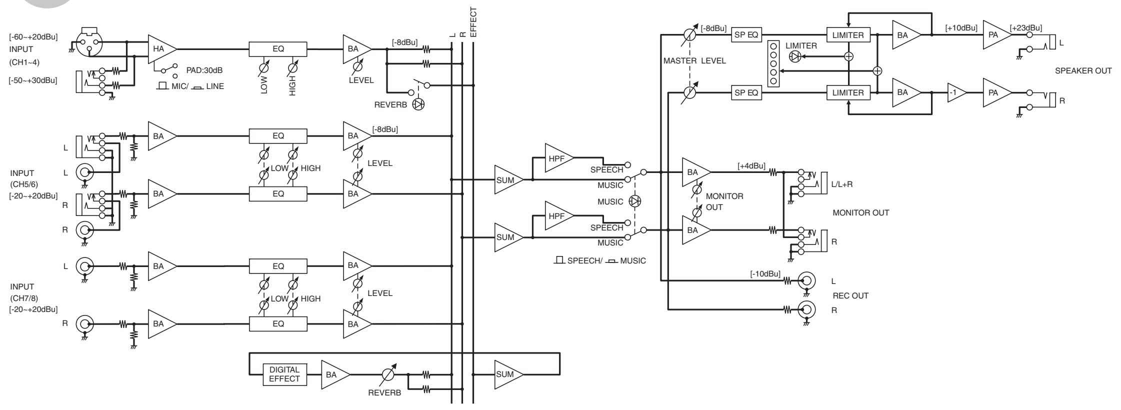
1台のスピーカーで使用したい

□ 1台でも使用できます。1台の場合は、LまたはRの信号が出力されます。

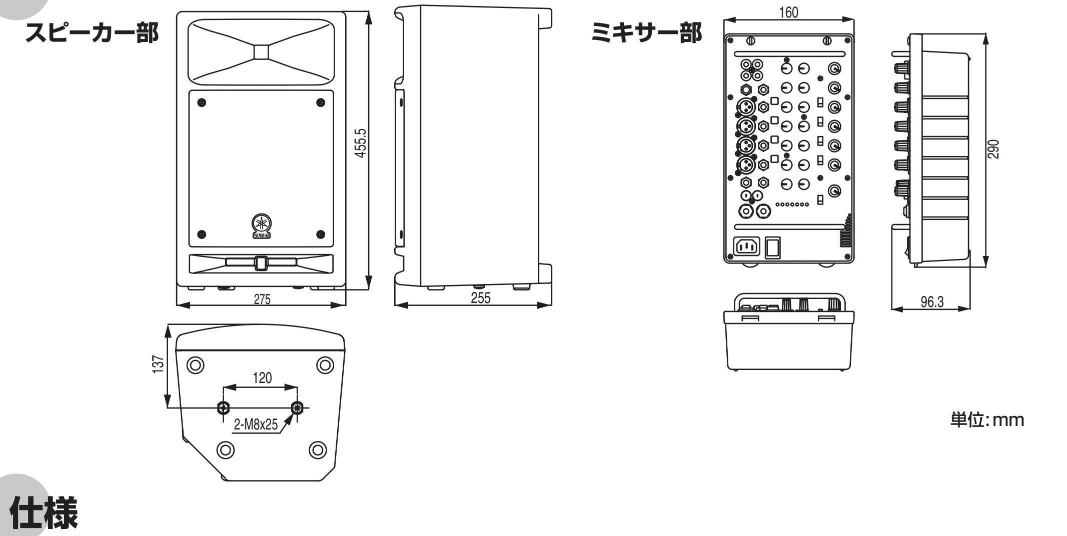
モニター用の信号を出力したい

□ MONITOR OUT端子にアンプ内蔵スピーカー(パワードスピーカー)を接続してください。MONITOR OUT端子は、MASTER LEVELコントロール調節前(プリフェーダー)の信号を出力します。MONITOR OUT端子の出力信号は、MONITOR OUTコントロールで調節してください。MASTER LEVELコントロールの影響を受けません。MONITOR OUT端子のLから信号を出力する場合は、LとRの信号がミックスされて出力されます。

ブロック図



寸法図



単位:mm

仕様

■一般仕様

最大出力
150 W+150 W/6 Ω @10 % THD at 1 kHz (SPEAKER L/R)
≧100 W+100 W/6 Ω @1 % THD at 1 kHz (SPEAKER L/R)

周波数特性
-3 dB, 0 dB, +1 dB @20 Hz~20 kHz, 1 W 出力/6 Ω
(MUSIC/SPEECH, EQ and SP EQ Circuitを除く) (SPEAKER L/R)
-3 dB, 0 dB, +1 dB @20 Hz~20 kHz, +4 dBu 10 kΩ Load
[MUSIC/SPEECH]スイッチ=MUSIC (MONITOR OUT, REC OUT)

全高調波歪率
≦1 % @1 kHz, 50 W Output Power (SPEAKER L/R)
≦0.5 % @20 Hz~20 kHz, +14 dBu 10 kΩ (MONITOR OUT, REC OUT)

ハム&ノイズ (20 Hz~20 kHz, Rs=150 Ω, MIC/LINEスイッチ=MIC)
≦-65 dBu 残留ノイズ (SPEAKER L/R)
≦-90 dBu 残留ノイズ (MONITOR OUT, REC OUT)
≦-67 dBu @MONITOR OUT コントロール& 1チャンネルコントロール
=ノミナルレベル (CH1-4) (MONITOR OUT)

クロストーク (1 kHz)
≦-70 dB 入出力間

質量
18 kg (スピーカー2台+ミキサー)

消費電力
70 W

入力チャンネルイコライザー特性
シェルビングタイプのターンオーバー/ロールオフ周波数:
最大可変幅(±15 dB)に対し3 dB下がったポイント
HIGH　10 kHz シェルビングタイプ
LOW　100 Hz シェルビングタイプ

■スピーカー

エンクロージャー
バスレフ型

スピーカーユニット
LF: 8" (20 cm) コーン
HF: 1" (2.54 cm) コンプレッションドライバー

クロスオーバー周波数
4 kHz

再生周波数帯域
55 Hz~20 kHz

最大出力音圧レベル
112 dB (軸上1 m)

＊ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

サービスについて

■ 保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。
保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

■ 損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

■ 調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。
調整・修理に際しては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのかも保証書に書かれています。
修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

■ お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品に関するご質問・ご相談はお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問合わせはヤマハ修理ご相談センターへおよせください。

■ ヤマハ修理ご相談センター

(修理受付および修理品お持込み窓口)

● 修理に関するお問い合わせ
修理ご相談センター
受付時間　月曜日～金曜日　9:00～18:00、土曜日　9:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)
ナビダイヤル (全国共通番号)　市内通話料でOK ナビダイヤル®　0570-012-808
※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830
FAX　(053)463-1127

● 修理品お持込み窓口
受付時間　月曜日～金曜日　9:00～17:45
(浜松サービスステーションは 8:45～17:30)
(祝日および弊社休業日を除く)
＊お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション
〒064-8543
札幌市中央区南十条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

仙台サービスステーション
〒984-0015
仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
FAX (022)236-0007

首都圏サービスセンター
〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松サービスステーション
〒435-0016
浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋サービスセンター
〒454-0058
名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪サービスセンター
〒564-0052
吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

四国サービスステーション
〒760-0029
高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
FAX (087)0822-7160

九州サービスステーション
〒812-8508
福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

● お客様ご相談窓口: ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口
ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター
Tel: 03-5791-7678　Fax: 03-5488-6663 (電話受付＝祝祭日を除く月～金/11:00～19:00)
ONLINE support: http://proaudio.yamaha.co.jp/

● 営業窓口

国内楽器営業本部 LM営業部 営業推進課
〒108-8568
東京都港区高輪2-17-11
TEL 03-5488-5430

PA・DMI事業部 PA推進部 MIPAマーケティンググループ
〒430-8650
浜松市中区中沢町10-1
TEL 053-460-2432

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト:
http://proaudio.yamaha.co.jp/
ヤマハマニュアルライブラリー:
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation
©2004 Yamaha Corporation
904MW-D0 Printed in China

STAGEPAS 300

クイックガイド

スピーカーから音を出す

付属のスピーカーを使って、音を出してみましょう。

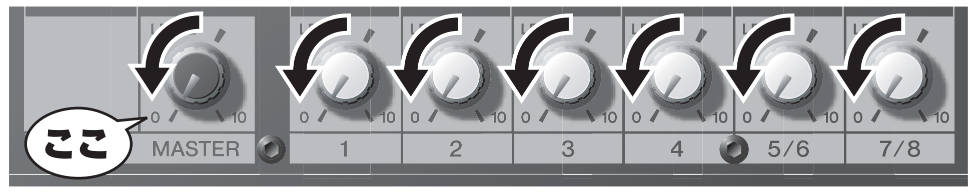
1 ミキサーにスピーカーや楽器などを接続します

付属のスピーカーをSPEAKER L／R端子に接続してください。ギターや楽器などの外部機器を入力端子に接続します。接続例を参照してください。

必ず実行 他の機器(付属のスピーカーやマイクも含む)と接続する場合は、すべての機器の電源を切った状態で行なってください。スピーカーケーブルは必ず付属のケーブルをご使用ください。故障の原因になることがあります。
また電源を入れたり切ったりするときは、必ずすべての機器の音量(ボリューム)を最小にしてください。

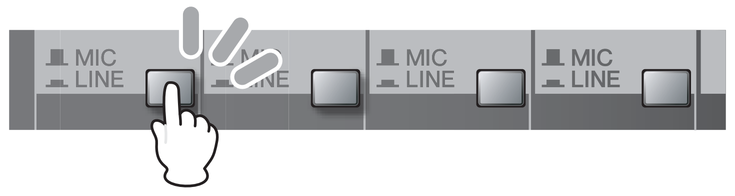
NOTE: エレキギターやエレキベースなどを接続する場合は、DI (ダイレクトボックス)、プリアンプ(ギターアンプ)、アンプシミュレーターなどを経由してミキサーに接続することをおすすめします。

2 ミキサーのLEVELコントロール、MASTER LEVELコントロールを“0”にします



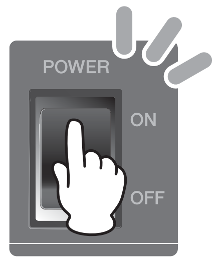
3 接続したチャンネルのMIC／LINEスイッチをMIC (▀) または LINE (▁) に設定します

マイクなどのレベルが低い入力信号を接続したチャンネルは、MIC／LINEスイッチをMIC (▀) にします。キーボードやオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続したチャンネルは、MIC／LINEスイッチをLINE (▁) にします。



4 電源を入れます

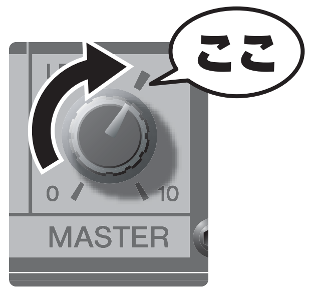
接続した外部機器の電源をすべてONにしたあと、STAGEPAS 300のミキサーの電源をONにします。アンプ内蔵スピーカー（パワードスピーカー）を接続している場合は、ミキサーの後に電源をONにします。



必ず実行 スピーカーから大きなノイズが発生しないようにするため、音源に近い機器から順に電源を入れてください。

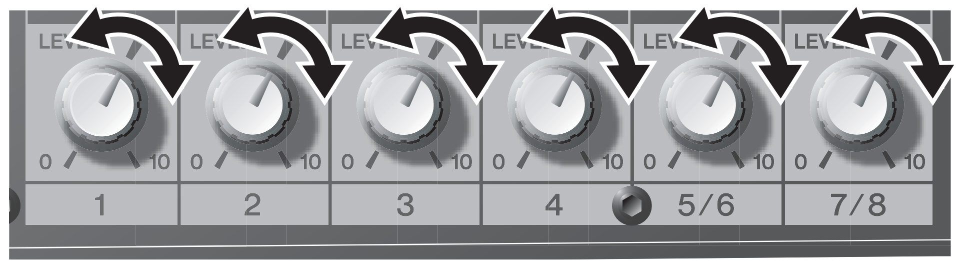
例: 音源(外部機器) → STAGEPAS 300 → (パワードスピーカー)
電源をOFFにするときは、上記の逆の順序になります。

5 MASTER LEVELコントロールを“ / ”に合わせます



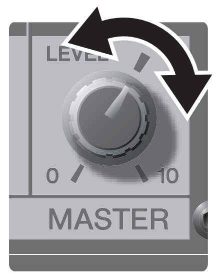
6 楽器やマイクで音を出しながら、各チャンネルのLEVELコントロールを調節します

LEVELメーターの“0”がときどき点灯するように、音が入力されているチャンネルのLEVELコントロールを調節します。



7 MASTER LEVELコントロールで全体の音量を調節します

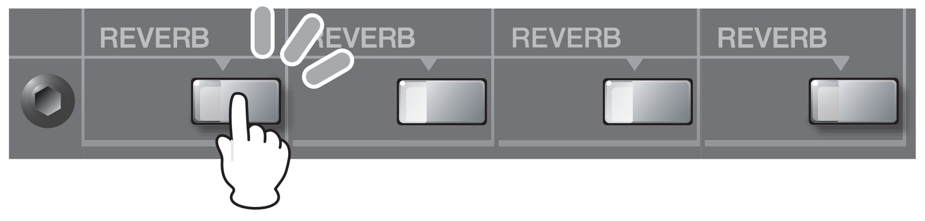
禁止 LIMITERインジケーターが長く点灯し続けると、内蔵アンプやスピーカーを破損する原因となりますのでご注意ください。



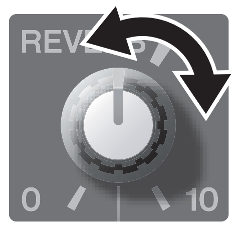
リバーブ（残響音／エコー）をかける

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような臨場感を得ることができます。

1 リバーブをかけたいチャンネルのREVERBスイッチを押してON (▁) にします



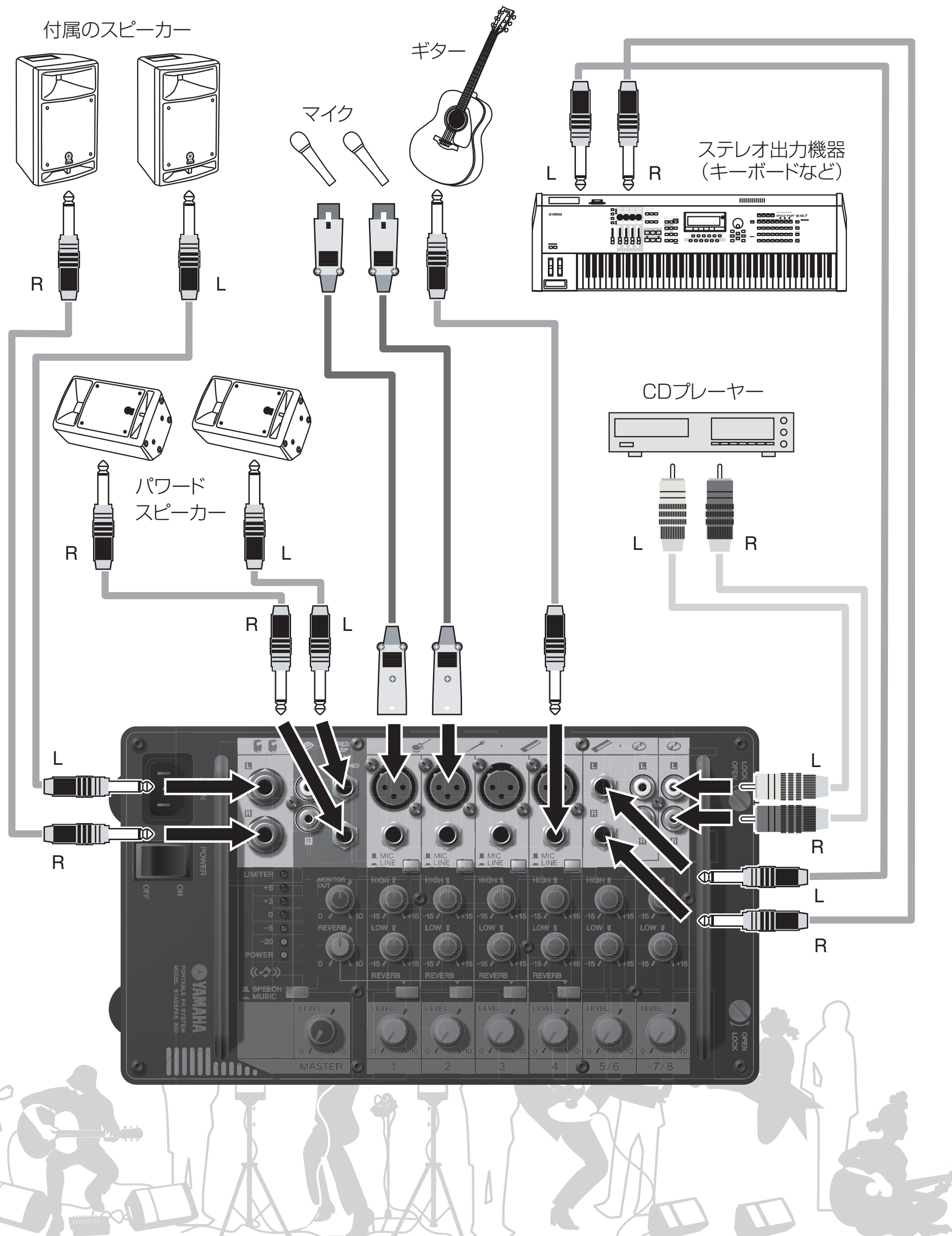
2 REVERBコントロールで全体のリバーブのかかり具合を調節します



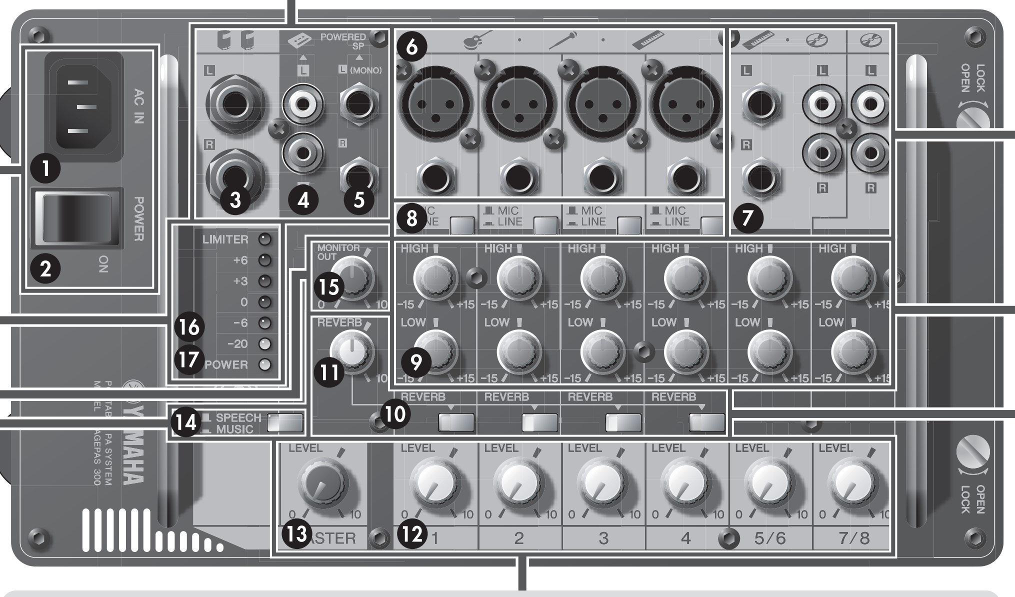
接続例

軽量かつパワフルなSTAGEPAS 300は、室内でのバンド演奏はもちろんストリートライブにも対応できます。マイクやギターなどのモノラル入力は、チャンネル1から4に接続、キーボードなどのステレオ入力は、チャンネル5／6または7／8に接続。アンプ内蔵スピーカーがあれば、MONITOR OUT端子に接続してボーカル用のモニターに使用。バンド演奏中は、SPEECH／MUSICスイッチをMUSICにすると、迫力あるサウンドが得られます。

NOTE: エレキギターやエレキベースなどを接続する場合は、DI(ダイレクトボックス)、プリアンプ(ギターアンプ)、アンプシミュレーターなどを経由してミキサーに接続することをおすすめします。



各部の名称と機能



❶ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

必ず実行 **電源コードは付属のものをご使用ください。それ以外のものを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になることがあります。**

❷ POWERスイッチ

電源のON/OFFを切り替えるスイッチです。

⓰ LEVELメーター

SPEAKER L/R端子から出力される信号のレベルを表示します。

必ず実行 **LIMITERインジケーターが長い間点滅すると、内蔵のパワーアンプに過大な負荷がかかり、故障の原因になります。信号の最大入力時に一瞬点灯するレベル以下に、MASTER LEVELコントロールで信号のレベルを下げてください。**

⓱ POWERインジケーター

POWERスイッチをONにすると点灯します。POWERインジケーターが点滅している場合は、保護回路が作動しています。スピーカーケーブルが正しく接続されているか確認したあと、再度電源を入れ直してください。

⓯ MONITOR OUT コントロール

MONITOR OUT端子から出力される信号を調節します。

NOTE: MASTER LEVELコントロールの影響は受けません。

⓮ SPEECH/MUSICスイッチ

SPEECH/MUSICスイッチをSPEECH (▀)にすると、ナレーションなどのスピーチに適した音質になります。SPEECH/MUSICスイッチをMUSIC (▁)にすると、楽器演奏やライブなどに適した音質になります。MUSIC(▁)にすると、SPEECH/MUSICスイッチが、黄色に点灯します。

❸ SPEAKER L/R端子 (付属のスピーカー用)

チャンネル1から7/8の信号がミックスされて出力されます。出力レベルは、MASTER LEVELコントロールで調節します。
付属のスピーカーのみを付属のスピーカーケーブルで、必ず電源を切った状態で接続してください。故障の原因になることがあります。

❹ REC OUT L/R 端子

チャンネル1から7/8のミックスされた信号が、MASTER LEVELコントロールに関係なく出力されます。外部のレコーダーなどを接続します。

❺ MONITOR OUT L(MONO)/R 端子

チャンネル1から7/8のミックスされた信号が、MONITOR OUTコントロールでレベル調整されて出力されます。外部のモニター用アンプ内蔵スピーカーなどを接続します。

⓬ LEVELコントロール

各チャンネルの音量バランスを調節します。

必ず実行 **ノイズを減らすために、使用しないチャンネルのLEVELコントロールは最小"0"にしておいてください。**

⓭ MASTER LEVELコントロール

SPEAKER L/R端子から出力される音量を調節します。LEVELコントロールやEQ (イコライザー)で調節した音色や、各チャンネルの音量バランスを変化させることなく全体の音量だけを調節します。

❻ チャンネル入力端子 (CH 1から4)

ギター、マイク、キーボードなどを接続します。マイクなどのレベルが低い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをMIC (▀)にします。キーボードやオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをLINE (▁)にします。

NOTE: 一つのチャンネルでフォーン端子とXLR端子を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけをご使用ください。

❼ ステレオチャンネル入力端子 (CH 5/6、7/8)

ステレオ信号をL/Rに入力します。シンセサイザーやCDプレーヤーなどステレオ信号で出力される機器を接続します。

NOTE: 一つのステレオチャンネルでフォーン端子とRCAピン端子を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけをご使用ください。

❽ MIC/LINEスイッチ

チャンネル1から4の入力信号のレベルに応じて切り替えます。マイクなどのレベルが低い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをMIC (▀)にします。キーボードやオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをLINE (▁)にします。

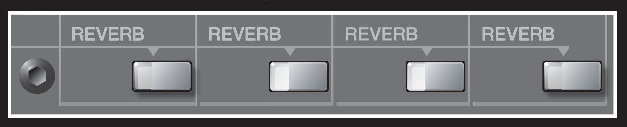
❾ EQ (イコライザー)

HIGH 各チャンネルの高音を調節します。右に回すと高音が強調されて、はっきりしたハギレのいいサウンドになります。「キーン」とハウリングする場合は、少し左に回して高音を抑えます。

LOW 各チャンネルの低音を調節します。右に回すと低音が強調されて、響きの深いサウンドになります。「ボーン」とハウリングする場合や音がこもる場合は、少し左に回して低音を抑えます。

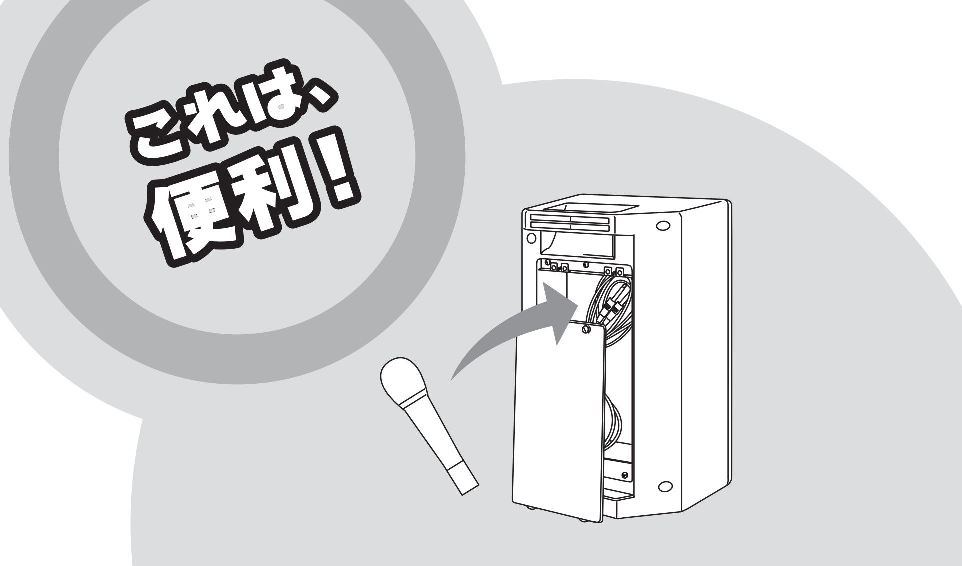
❿ REVERBスイッチ

コンサートホールやライブハウスで演奏しているようなリバーブ(残響音/エコー)をかけたい場合は、このREVERBスイッチをON (▁)にします。ONにすると、REVERBスイッチが緑色に点灯します。



⓫ REVERBコントロール

全体のリバーブ(残響音/エコー)のかかり具合を調節します。リバーブをかけすぎると音がぼやけたり、ハウリングしやすくなりますので、少し抑えて設定します。



付属の電源ケーブル、スピーカーケーブル、取扱説明書（本紙）、マイク（別売）をスピーカーに収納できます。スピーカーのパネルを取り外して、必要なものをコンパクトに収納しましょう。
STAGEPAS 300さえあれば、いつでもどこでもライブステージに変わります。